OKIU MAGAZINE

Vol.123 Spring

沖縄国際大学　学報　www.okiu.ac.jp

INDEX

02 キャリアアドバイザー座談会
06 内定者インタビュー
08 経済学部 成績優秀者表彰式
10 第53回 沖国大祭
18 沖国大ゼミ紹介 人間福祉学科 桃原ゼミ
20 研究室探訪 人間福祉学科 岩田直子先生
24 OKIU 青春白書
28 クラブ・サークル紹介
32 グローバル教育支援センターを活用しよう！
34 ニューストピックス
39 人事情報
40 大学行事案内

喜屋武（きゃん） さくら
英米言語文化学科　4年次

私は大学生活で、勉強やバイトの他、海外語学・文化セミナーでベトナムに行ったり、中学生への部活指導、長期インターンシップなど、様々なことを経験しました。
大変なこともありましたが、充実感と自信を得ることができました。この経験を活かして、就職先でも頑張ります！

キャリアアドバイザー座談会

就活だけでなく、今後のキャリア形成を一緒に考えてみませんか。

キャリアアドバイザー
左から）大盛涼子さん、島袋愛子さん、當銘美和さん

キャリア支援課にはキャリアコンサルタントの国家資格を持ったキャリアアドバイザーが常勤しています。専門家として、学生の相談内容に合わせたアドバイス、卒業後のキャリア形成や就職の相談、応募書類や履歴書の添削、模擬面接、グループディスカッションなど、多岐にわたる内容で学生を支援しています。現在の就職活動の特徴、就活の適切な時期など、キャリアアドバイザー3名にお話を聞くことができました。就活を行うにあたり、様々な選択肢がある現在、キャリア支援課を活用して、自身のキャリア形成を考えてみてはどうでしょうか。

◆キャリアアドバイザーになったきっかけを教えてください。

當銘：以前は専門学校で 15 年勤務し、図書館司書として働いていましたが、思わぬ人事異動で一般事務を務めることになりました。慣れない業務の中で、夢をもった学生の対応をするうちに自身のギャップに苦しみ、今後どういった仕事をしたら良いのか考えて、キャリアコンサルタントの国家資格を取得しました。現在は沖国大キャリアアドバイザーとして 10 年目を迎えました。

大盛：大学卒業後、教員として勤務していましたが、結婚と出産を機に退職し、10 年間は主婦として働いていました。このまま主婦でいるのか、教職現場に復帰するか考えていましたが、毎日通っていた大型スーパーの催事場で季節ごとに催事が行われていることにふと気付いて、自分が知らない世界が広がっていることを実感しました。そこから、自分の世界を広げるためにキャリア教育コーディネーターとして高校で働き始めましたが、思っている業務内容ではありませんでした。そこで、キャリア教育にかかわる仕事がしたいということで県内大学のキャリア支援を行い、現在は沖国大のキャリア支援課で 4 年目になりました。

大盛涼子さん

島袋：大学では高校教員を目指していましたが、挫折してしまいました。それでも、教育関係の現場で働きたいということで、沖国大図書館臨時職員として 2 年間勤務し、2019 年にはキャリア支援課の臨時職員として窓口業務を担当していました。窓口業務では学生相談を受けることが多く、専門的な知識に基づいたアドバイスをしたいということで、キャリアコンサルタントの資格を取得し、2023 年 4 月からキャリアアドバイザーとして勤務することになりました。

◆キャリア支援課での支援について教えてください。

當銘：添削や面接、個別相談がメインです。その他にもグループディスカッション、自己分析のグループワーク、キャリア支援課独自のガイダンスやセミナーを開催しています。現在は 3 年次の春休みから就活を開始すると対策が遅れてしまう状況です。そのため、低学年からステップを踏んで、様々なことに挑戦してもらいたいです。具体的には、1、2 年次で様々な体験を通して自分が好きなこと、やりたいことを探し、自身の体験を土台に選択肢を広げる事前準備をしてもらいたいです。そうすると、3 年次には自分の道を決めやすくなります。また、大盛さんが担当している出張キャリアガイダンスでは、依頼があったゼミで自己分析、就活体験、企業研究について共有し、大学全体のキャリア教育の底上げを行っています。

當銘美和さん

島袋：県外就活に必要なオンライン面談の受付も行っています。キャリア支援課の敷居が高いと考える学生もいますので、事前予約なしのフリーデー相談を週 1 回実施しています。20 分という時間で気軽に相談ができます。
まじめに就活をしていない、就活の準備ができていないことを指摘されるかもしれないなど、キャリア支援課に来る資格がないと考えてしまう学生層も多いと思います。そういった学生にこそ気軽に来てほしいので、内定者の先輩が学生サポーターとして相談相手になり、親しみやすい環境づくりも行っています。最近ではインスタを通して、キャリア支援課の情報を発信しています。

◆学生支援で大事にしていることは？

大盛：相談に来る学生は自分自身が大事にしていることをはっきり認識していないことがあります。個別相談では、過去に体験した話を聞いていくことで、学生自身の強みやドラマ性を引き出し、自己アピールのポイントを探すことを大事にしています。

當銘：学生の自分らしさや自律性を大事にして

います。これまで支援してきた学生の中には、親や先生の紹介で専門学校や大学に入学して、ずっと葛藤している子もいました。社会人になってもリアリティショックで退職するケースもあります。自信がない学生には、大学卒業後が勝負なので、卒業後に自分自身がぶれないための軸を作ることを大事にするよう伝えています。

島袋：相談に来る学生は十人十色です。私自身の支援スタイルを貫くのではなく、相談者に沿った支援の方法を決めていくことを大事にしています。相談学生は勇気を出してキャリア支援課に来ているのかもしれません。添削も否定的な感じではなく、自己肯定感を高めていくような支援、来てよかったなという支援をしたいと考えています。

島袋愛子さん

◆現在の就職活動は早期化しているのでしょうか？

大盛：最近はすごく感じます。国の方針が変わり、今までの就活開始時期は３年次の春休みからでしたが、現在は３年次の６月から始まっています。特に、３年次の夏休みに行われるインターンシップも選考の一部に組み込まれることになったため、３年次の早い時期から、インターンシップ応募に必要なエントリーシートの書き方を学ぶ学生も増えています。

當銘：３年次のインターンシップは、３年次の４月に告知が来て、エントリーシートの書き方を学び、夏休みにインターンシップを行います。その後はインターンシップを行った会社の早期選考を受けて、３年次の 12 月には内定が決まる場合もあります。４年次進級前に就活が終了する学生も増えています。特に、県外就活はその傾向が強いです。現在は３年次で内定した学生、４年次から県内就活を始める学生が混在している状況です。採用企業もできるだけ早い時期に人材確保を行いたいということで早期選考を行っていますが、３年次内定者でも、同学年の学生たちが４年次から就活に取り組む様子を見て、内定を辞退する学生もいます。そういった理由から、夏休みのインターンシップだけで、早期内定を決めてしまうと辞退者も出てくるケースもあり、悩ましい限りです。

◆現在の就活状況はどうですか？

大盛：沖国大のキャリア支援課以外にも、就職相談ができる機会が以前に比べて増えています。最近は、採用企業も一次面接と二次面接の間に面談の時間を設けて、次の面接対策を行うこともあります。
また、エージェントに就活斡旋してもらうことも増えています。エージェントの場合は、商売柄、エントリーシートや履歴書の書き方の分かりやすさを売りにしています。キャリア支援課では、キャリア形成を考えながらじっくり育てていきます。手取り足取り分かりやすいところに学生は行きやすいイメージです。

◆どちらを選択するかは学生個人の考え方になりますね。

當銘：今までは金融系、保険業が人気の職種でしたが、現在は、文系の学生にとって敷居が高かった IT 企業も人気です。企業説明会で文系でも問題ないという IT 企業も増えているのも人気の要因かと思います。特に、今の学生はコロナ禍でオンラインの影響を受けており、日常生活ががらっと変わったことを体験しています。これからは IT 技術、手に職もあった方が良いという意識が強いのかもしれません。

◆就活についてのアドバイスをお願いします。

大盛：やりたいことがはっきりしている学生は実は少数です。やりたいことがないという学生が多いので、１、２年次は色々なことに挑戦し、右往左往することで、自分のやりたいことが決まっていくと思います。もしも選択が間違っていたとしても、一生懸命やることでやり直しはできます。転職時代の現在、頑張って磨いているスキルは次のステップでも生かすことができます。様々な選択肢があることを知って、自分のキャリア形成を自由に考えてほしいです。

島袋：変動性のある時代なので、先ばかりを見ても分からないことが多いです。私自身、ご縁や流れに沿って今ここにいます。思い通りにならないこともあると思いますが、人生は選択の連続で、自分の経験、選んだ道を成功にしていくしかないです。自分の考えていることを信じて、納得のいく選択をしてほしいです。

當銘：キャリア支援課を利用している学生層は、何から就職活動を始めたら良いのか迷っていたり、自身の就活が間違いではないか確認したいという慎重派の学生が多いと思います。支援する際には、学生のこれまでの経験を振り返り、失敗した原因や、自分が大事にしたいものを考えてもらっています。
言語化することを大事にしていますので、思っていることを言葉にできない、うまく言えなくて躊躇する子もいますが、自分がやりたいことを言葉にして、誰かに伝えることで、協力者や機会を引き合わせることができるのではないでしょうか。
また、ハローワークや沖縄県キャリアセンターなど、学外からのキャリアアドバイザーの派遣もあり、有資格者の相談間口が広くなっています。その分、就職活動だけではなく、今後のキャリア形成を考えたい学生に来てほしいので、まずは気軽に相談に来てください。

インタビュー後記

キャリアアドバイザー３名の支援方針は様々ですが、学生にはより良いキャリア形成をしてほしいという共通の想いを感じました。この機会にぜひキャリア支援課に足を運んでみてください。

株式会社コナミデジタルエンタテインメントに産情学生２名が内定！

大手ゲーム会社の株式会社コナミデジタルエンタテインメントに産業情報学科の大山ゼミ生２名が内定しました。夢を実現した２人のコメントをご覧ください。

左から島袋舞優さん、大山先生（産業情報学部講師）、饒平名佑哉さん

島袋舞優さん（産業情報学科４年次）

積極的に行動し、学び続けること

幼い頃からものづくりが好きで、デザイナーに憧れていました。

入学当初は他学科に在籍していたのですが、大山ゼミで3DCGを学びたいと考え産業情報学科への転籍を決断しました。ITの知識がなかった私にとって講義は難しいものでしたが、先生方への気軽な相談、丁寧な指導を受けました。大山ゼミの3DCG制作は、何度もくじけそうになりましたが、参考書やwebサイトを参考にし、先生や先輩、友人に聞いて、スキルを身につけていきました。ポートフォリオ制作では、3DCG制作に加え、講義以外で学んだスキルも活用し作品のクオリティにこだわることができました。ゲーム業界を志望し、憧れのデザイナー職で内定を頂けたことに喜びと誇りを感じています。

幼い頃、兄弟とゲームで遊び、助け合いながら成長し、互いに喜怒哀楽を共有した思い出が今でも心の支えになっています。こうしたゲームの感動体験を多くの人に届けられるデザイナーを目指してこれからも日々学び、努力していきます。

饒平名佑哉さん（産業情報学科４年次）

新たな経験を大切にし、挑戦し続けること

IT分野を学びたいと思い産業情報学科に入学しました。

1年次ではプログラミングを中心に学び、web制作やアプリ開発を行いました。2年次のゼミ選択期間中の大山ゼミ説明会でCGに出会い、デジタルを通して幼い頃から好きだったモノづくりができる点に魅力を感じ、クリエイターになることを決心しました。2年次後期から大山ゼミでCGやゲーム開発を学び、演習以外でもCGの知識を身につけるため、参考書やwebサイトで詳しく調べたりと、探求心と向上心を身につけました。3年次のポートフォリオ制作では、完成度を上げるために何度も修正して、くじけそうな時もありましたが最後まで諦めずに作品を制作し、大きな達成感を感じました。

志望企業から内定を頂いたときには嬉しさでいっぱいでした。ゼミでの取り組みから挑戦し続けることの大事さを学び、今後はゲームを通して人々に笑顔や感動を届けられるように様々なことに挑戦し続けたいと思います。

公務員採用試験合格者報告（行政職）

2024年12月現在、公務員採用試験の合格者は30名を超えました。その中から、内閣府沖縄総合事務局と西原町役場の一般職に合格した2名にインタビューを行いました。

徳平笑琉さん（法律学科４年次）

内閣府沖縄総合事務局内定

◆行政職をめざしたきっかけは？

中学高校と空手道をやっており、沖縄の文化に触れたことがきっかけで沖縄振興に関心を持ちました。沖縄県ならではの問題や課題に向けて取り組みたいと考え、志すようになりました。

大学3年生の11月から、独学で勉強を始めました。法律はもともと好きだったのですが、経済学の計算等はてこずりました。

高卒の公務員採用試験問題からスタートして、徐々にレベルアップすることで自信がつきました。

◆合格の秘訣は？

キャリア支援課で複数のアドバイザーからアドバイスをいただき、様々な目線で小論文と面接試験の対策を考えることができました。

◆将来の目標を教えてください

沖縄のインフラ整備に関心があります。沖縄をより過ごしやすい環境にできるように、国の立場から地元に貢献したいです。

山城弘明さん（法律学科４年次）

西原町役場一般職内定

◆公務員をめざしたきっかけは

私が2歳の頃、母が病気になり役所のサポートで保育園の送り迎えをしてもらいました。その支援の記憶があり、公務員として地元の方を支える仕事がしたいと思いました。

◆試験の準備はいつから始めましたか？

3年次の夏から勉強を始めました。

出題範囲が広くて大変だったので、もっと早く準備を始めても良かったです。

公務員として働いているゼミの先輩に、試験対策等についてアドバイスを貰っていました。

◆合格の秘訣は？

面接対策は公務員予備校やキャリア支援課、ハローワークなど利用できる場所はすべて活用しました。筆記試験は計画を立てて継続することが大切です。

◆どんな公務員になりたいですか？

事務処理を効率化し、住民の皆さんの生活を便利にするため、行政サービスのDX化に積極的に取り組みたいです。

2024年度 経済学部成績優秀者表彰式

2024年10月18日(金)、厚生会館4階ホールにて、2024年度経済学部成績優秀者表彰式が開かれました。

前年度の成績に基づいて、各学科各学年のもっとも優れた成績を収めた学生(同率五位まで)が表彰されます。今年は、経済学科16名、地域環境政策学科18名が表彰され、村上了太経済学部長から表彰状と記念品が授与されました。

表彰に引き続いて、昼食会が行われ、併せて、4年生の受賞者のスピーチが行われました。

地域環境政策学科の平田愛華さんは「賞のために頑張ってきたというより、目の前のことに手を抜かないで一つ一つ努力していたら、結果としてこの賞を頂きました。後輩の皆さんも、自分の努力を信じて頑張って下さい。」と話しました。

表彰者一覧

経済学科

(4年次)	長嶺優奈	東江麻彩香	下地稚乃	山城鈴	饒平名琉真	
(3年次)	池原和希	日賀雄太郎	儀保裕一朗	渡嘉敷祥	銘苅茉紘	
(2年次)	名幸翼	宮里修司	上原拓也	伊野波柚希	知念瑞希	宮城海基

地域環境政策学科

(4年次)	謝花美生	平田愛華	嶺井ゆうり	山本理奈	佐和田百音	
(3年次)	與座笑佳	上村卓正	宮良若那	宮平桃華	山内遼平	西岡玲海
(2年次)	嘉数颯太	黒島由衣	仲間雅弥	平良友希	神里百花	小谷怜奈
	玉城桃花					

表彰者コメント

饒平名 琉真　経済学科 4年次（本部高校出身）

この度は成績優秀賞を頂き、大変嬉しく思います。

受賞できたのは、授業の面白さを教えていただいた先生方や、家族の支えのおかげで、日々努力し続け得られた結果だと思っています。

今後も初心を忘れず、努力を怠らず、芯のある社会人を目指していきます。

銘苅 茉紘　経済学科 3 年次（北谷高校出身）

去年に引き続き、成績優秀者賞をとることができ、大変嬉しいです。

どの授業もとても興味深く、特に共通科目では、経済学科以外の様々な学問に少しずつ触れられて楽しかったです。

これから就活の本番に入るので、これを武器に頑張っていこうと思います。

嘉数 颯太　地域環境政策学科 2 年次（小禄高校出身）

成績優秀者に選んで頂き嬉しかったです。

今後の目標は、1、2年次で受講した生き物観察の講義が面白かったので3年次にも環境系ゼミを希望しています。観察する生き物、環境に関する知識不足を補う為、本や資料を読む習慣を身につけます。

OKIU 53rd 2024 FESTIVAL REPORT

2024年11月23日(土)、24日(日)の2日間、第53回沖国大祭を開催しました。

今年のテーマは「初志貫徹～想いを胸に～」です。

「大学最後の思い出が作りたい」「来場者に笑顔を届けたい」といった想いを胸に、日頃の課外活動成果を作品展示等で披露しました。

撮影者コメント

写真部として、大学祭の撮影でみんなのキラキラした姿をカメラに収めることが出来ました！カメラ初心者でしたが、とても楽しく撮影できました！ありがとうございます！！

大城果音(英米2年次)

当日は晴天に恵まれ、模擬店の開催や野外ステージの出演も行いました。

沖国大祭実行委員を中心に笑顔あふれる交流の場を作り上げ、多くの皆様にご来場いただきました。

また、今年の大学祭では写真部員3名に協力して頂き、活気に溢れた大学祭当日の様子を撮影してもらいました。

学生視点での大学祭の様子も併せてご覧ください。

撮影者コメント

学祭だからこそ撮ることのできたドラマチックでいきいきとした表情にこちらもすごく楽しませていただきました！
少しでも当日の空気感がこれらの写真たちを通じてお伝えできれば幸いです

下地桃加（社文3年次）

撮影者コメント

今回初めて撮影に参加させていただきましたが、撮影しているこちら側も楽しかったのと、大学祭に来られたお客様や出店や展示を行っている学生みんなが笑顔で取り組んでいて良い雰囲気でした。

嘉数啓佑(法律3年次)

本学の大学祭は大学祭実行委員が中心になり、それぞれの班が役割をもって運営しました。
開催前の総会では各出店団体との事前調整、前日には各会場の設営準備を行いました。
また、当日は来場者やスタンプラリーの対応、巡回など様々な役割を通して大学祭を支えました。

大学祭の翌日には、沖国大祭実行委員と学生環境委員会のメンバーが中心になって、ゴミの分別や後片付けを行いました。
第一駐車場に設置したゴミステーションでのごみの受付、分別、会場設備の片付けなどを行いました。

沖国大ゼミ紹介

人間福祉学科社会福祉専攻　桃原一彦ゼミ

社会調査で社会学的な視点を身に付け、沖縄の問題や地域福祉的な課題を考えてみよう。

今回は人間福祉学科社会福祉専攻の桃原ゼミを紹介します。

桃原一彦教授の専門領域は社会学で、2年次前期・後期の「専門演習a・b」では、社会福祉の周辺学問領域として社会学を学び、現代社会を解読するために必要な基礎知識と技能を習得するゼミです。

桃原ゼミでは、3年次前期・後期の「専門演習c・d」で、県外調査班と県内調査班に分かれて共同研究を行います。県外調査班は関西大都市圏に在住する沖縄出身者のコミュニティでヒアリングを行い、地域福祉的な課題をテーマとします。また、県内調査班は沖縄社会の現代的な問題をテーマに調査研究を行います。社会調査は9～11月頃に実施し、12月ごろからデータ整理、分析・考察、そして調査報告書を作成します。

ゼミ長インタビュー

新城咲奈さん　人間福祉学科3年次（美里工業高校出身）

桃原ゼミ長の新城咲奈さんに人間福祉学科で学ぶきっかけ、将来の目標、ゼミの雰囲気などを伺いました。

Q1 人間福祉学科社会福祉専攻に進学したきっかけは？

幼い頃から父親と一緒に見るドキュメンタリー番組が好きで、特に海外の子供たちの貧困問題に興味がありました。沖縄と海外の貧困問題の違いを考えるうちに、ソーシャルワーカーの存在を知り、社会福祉専攻に進学するきっかけとなりました。

Q2 現在はどういった活動をしていますか？

私は社会福祉士を目指しているので、夏休みの1か月間を利用して福祉施設での社会福祉実習を行いました。

実習では、主に知的障がいのある通所利用者のお世話をしました。

最初はどう対応してよいのか悩んでいましたが、施設職員の話や現場の様子を見ることで、利用者の特性や感情の裏にある背景を考えるようになりました。利用者の特性に沿ったコミュニケーションで関係性を築くためにはどうすれば良いのか、利用者のニーズを把握する方法を考えることで、自分自身の考え方や人間性が大きく成長できる経験となりました。

Q3 桃原ゼミの雰囲気は？

3年次対象の桃原ゼミ「専門演習d」はいつもリラックスした雰囲気です。社会学をベースに人と人、人と社会のつながりについて調査したり、私が知りたかった貧困の要因について考えることが出来ます。

桃原ゼミは15名で、県内調査班と県外調査班に分かれて、様々なテーマで調査を行います。私は県外調査班として、今年（2024年）11月には、兵庫県尼崎市の沖縄コミュニティーの方々の聞き取り調査を行いました。対象者は2世の方が多く、これまでの苦労された経験、生活や意識の変化などの調査結果をもとに、出会った方々のライフヒストリーをゼミで発表します。

Q4 桃原先生について

桃原先生は柔らかい雰囲気で、話しやすい先生です。肯定的な意見でゼミ生の発表を補足してくれたり、学生の気持ちを理解してくれる印象です。

また、社会学の視点で桃原ゼミでの学びは、人と社会のつながりを自分自身に重ねて考えることが多く、社会学の視点で社会福祉について考えたい学生にはおすすめだと思います。

Naoko IWATA

岩田 直子

総合文化学部 人間福祉学科 社会福祉専攻 教授

OKIU 研究室探訪

当事者主体の社会福祉を考える

社会福祉学とは、社会で暮らす一人ひとりの尊厳が守られ、権利が保障されるために、どのような社会環境やサービスが必要か研究していく学問です。

本学の人間福祉学科社会福祉専攻は新設されて24年になりました。当事者主体の社会福祉の在り方をフィールドワークを通して研究する岩田直子先生にインタビューを行いました。

福祉にかかわるきっかけ

私の双子の妹の1人は足に障害があり車いすユーザーなのですが、父親の仕事の都合で住んでいたアメリカでは2人一緒に地域の幼稚園で学びました。帰国後も同様に地域の小学校に通学できると思っていましたが、当時の日本は障害を理由に一緒の学校で学べないことが分かりました。私はおかしいと感じたことには「どうして」と考えるような子どもでしたので、同じ日に生まれた妹たちが障害を理由に別々の学校に行かなくてはならないことに疑問を持ちました。そして、新聞や文献を読んで同じ時代でも国が違うと障害の捉え方も教育の在り方も違うことを勉強しました。家族ともよく障害者の権利について議論したことを覚えています。このような経験から社会福祉に関心を持つようになりました。

その後、津田塾大学学芸学部英文学科に進学するため上京しましたが、英語を専門的に学ぶことから英語を手段に世界の動向を知りたいと考えが変わり、英文学科から国際関係学科に転籍しました。

大学進学で上京

大学生活はとても有意義なものでした。国際関係学の講義ではグローバルサウスの視点から世界を構造的に分析する視点を学び、今でも物事を考える際の大きな指針となっています。ゼミ活動で途上国を支援するNGO団体を調査したのですが、その団体とはその後もつながり、マイクロクレジットによる女性の経済的自立を支援する活動に参加させてもらいました。講義の他には、聖書研究サークルの部長をしたり、大学祭で副委員長をしたり、十大学セミナーで他大学の学生と国際政治を議論したり、都市農業を考える会で環境問題を考えたりしました。大学の学生寮で過ごしたので、寮の仲間と夕食をつくったり時間を忘れておしゃべりをしたりもしました。そして、3年次に「沖縄研究」という講義で3泊4日の沖縄研修があり参加しました。この研修が沖縄との最初の出会いで深く印象に残っています。

学生課の掲示板で見つけた重度障害のある人たちの介助ボランティアは福祉の道に進む大きなきっかけになりました。私は24時間介助が必要でも施設を出て地域で暮らしたいと「自立生活」を選択した方たちの食事や入浴の介助をしました。介助ボランティアで出会った重度障害者の皆さんもNGO団体の皆さんも、社会を変えたい！ 不平等をなくしたい！ と闘っていました。学生時代にこのような方々と出会えたことは人生の財産となりました。

卒業後は、NGO団体に就職しましたが、障がいのある人たちと一緒にまちづくりをしたいという気持ちが膨らみ、社会福祉学を学ぶために明治学院大学大学院に進学しました。

大学院時代の研究と自立生活運動への参加

大学院では、社会福祉学について体系的に学びました。また、障害者の自立生活運動に関すること、特に、障害女性の複合的差別に関して研究しました。学部時代のゼミで学んだジェンダー研究を生かせたと思います。さらに、地域福祉論を研究する指導教授からまちづくりの面白さを学びました。

院生時代も介助ボランティアは継続していました。当時、24時間体制で介助者を派遣する仕組みが途上にあったので、自立生活運動のリーダー達は行政交渉や政策提言を繰り返していました。私は介助者として現場に参加し自立生活運動のリーダーの発言を直に聞くことができたのですが、専門職者主導のサービスから当事者主導のサービスへとパラダイムシフトする現場に参加できたと思います。また、自立生活運動が大切にしている当事者の“自己選択・自己決定”が、障害者以外の人々にとっても大切であることを理解してからは、多様な人々と共にまちづくりを進める手法に関心を持つようになりました。

まちづくりに参画して

現在、大学で社会福祉の教育と研究に携わりながらNPO団体の理事をしたり行政の審議会の委員をしたりしてまちづくりに関わっています。社会課題が複雑化する今日、行政だけで何かを解決することは不可能です。このことから、各地で多様なセクターが集まり、協働によるまちづくりが進められていますが、沖縄のまちづくりは素晴らしい取り組みがたくさんあってわくわくしますし、沖縄への愛着が感じられます。当事者の声をしっかり聴き、誰一人取り残されない共生社会をめざして活動できたらうれしく思います。

本学で学ぶ社会福祉専攻の学生について

社会福祉専攻の学生は社会課題を自分ごととして捉えている人が多い印象を持っています。身近な人の介護の経験やソーシャルワーカーとの出会いが問題意識を育てたのだと思います。講義や実習、卒業論文作成、国家試験の準備等が続いて忙しいのですが、学生はその中でボランティア活動に参加したりプロジェクトを企画運営したりして社会と接点を持つことが多いと思います。

卒業生の多くは社会福祉士・精神保健福祉士として活躍していますが、一般企業や行政に就職して福祉の視点を活かした提案をする人もいます。現場の最前線で真摯に市民に向き合う姿、社会環境を変えていく行動は頼もしい限りです。

既存の発想に縛られずしなやかに社会を変革する人になってほしいと思います。

これからの目標

私は当事者主体の社会福祉サービスのあり方について研究をしてきました。その原点は学生時代から関わり続けている自立生活運動です。研究で出来ることは小さいことかもしれませんが、仲間の権利を守るために闘う人々の声をまとめて次世代に継ぐことが出来たらと考えています。

昨今の障害者団体は、仲間の権利保障のために闘う人が少なくなっているように思います。少なくなると、これまで声を上げて獲得してきた権利や仕組みがいつの間にか消滅してしまいます。社会福祉予算が削減される中で、当事者の声を起点に考えていくことがますます求められていると思います。微力ながら研究を通して当事者主体の福祉を実現することに貢献したいと思います。

岩田先生推薦書籍紹介

①『母よ殺すな』

学生時代に読んだ原点に戻ることが出来る書籍です。脳性マヒ者であり障害者運動のリーダーであった横塚晃一氏の発言や文章をまとめた著作で、自立生活運動に大きな影響を与えました。1979年。

②『障がい者殺しの思想』

1970年代の障害者運動を牽引し、健全者社会に対して「否定されるいのち」から鮮烈な批判を繰り広げた横田弘氏の原点的書です。障害者運動の歴史や思想を知る重要な資料で、学生時代に影響を受けました。

③『共生の障害学』

九州沖縄の障害学を研究する仲間たちでまとめた本です。障害学が多様な人々の共生を支えるための思想的プラットホームになるためにも、脱能力主義の思想を育み、働けないことやできないことを含めて人間存在を肯定できる価値と論理が障害学の基盤に据えられなければならないとして共生の障害学を探究しています。

岩田　直子（いわた　なおこ）
総合文化学部人間福祉学科教授

津田塾大学学芸学部国際関係学科修了後、明治学院大学大学院社会文化研究科社会福祉専攻修了。
英国リーズ大学Social Policy & SociologyDisability Studies修了。
研究分野は障害学、障害者福祉、まちづくりなど。相談援助実習指導IIIII、専門演習、海外社会福祉演習など。

OKIU 青春白書 ～活躍する学生たち～ 01

伊佐　善朗
Yoshitoki ISA
総合文化学部人間福祉学科 4年次
普天間高校出身

地域福祉を通して、生きやすい社会を作る

人間福祉学科社会福祉専攻では、現場を重視した実践的教育を通して、福祉の各分野で活躍できる学生を養成しています。

今回ご紹介する伊佐善朗（人間福祉学科4年次）さんは、人間福祉学科の先生や保護観察官の方と非行少年の更生保護活動を目的にした沖縄県BBS会を復活させ、地域社会への貢献と非行少年の健全な育成に取り組んでいます。

これまでの活動のきっかけや、主な活動内容である「ともだち活動」、今後の活動計画についてインタビューしました。

沖縄県 BBS 会とはどういった団体ですか?

非行少年、保護観察を受けた少年少女に対して、お兄さんお姉さん的な立場で応援し社会復帰をともに目指す団体です。主な活動はいくつかありますが、メイン活動は「ともだち活動」です。

沖縄 BBS 会の歴史について

沖縄BBS会の歴史は結構古くて、全国でも初期の時期に立ち上がりましたが、活動の波によって存続の危機を何度か繰り返してきました。直近では宮古島BBS会もありましたが、今回の沖縄県BBS会に一本化する形になり、今回3年ぶりくらいに復活しました。

代表者になった経緯を教えてください

私は人間福祉学科に所属しており、講義でBBS会の更生保護について知りました。いつかは、福祉に関する事業や子どもに携わることを考えていた時期でしたので、荻野先生と保護観察所の方が沖縄のBBS会を復活させたいという話を聞き、初期メンバー10名を集めることができました。

「ともだち活動」について教えてください

保護観察中の場合、通常は保護観察官が担当しますが、「ともだち活動」では、対象者、保護観察官、そして僕たちの三者間で連携を取り、私たちはお兄さん、お姉さんの立場で対象者のニーズに応えていきます。具体的には、高校の勉強のやり直し、免許取得の手助け、一緒に遊びに行くなど、本来社会の中で当たり前に受けるはずだった活動を再現します。

特に、同世代の私たちと一緒に遊んだり、様々な活動を経験することで、社会復帰の心を育成し、最終的に目標を達成して巣立っていくという形になるのが一番の目的です。

その他にもどういった活動がありますか?

「社会貢献活動」では、「社会を明るくする運動」として、非行少年を地域の皆さんで支えていく意義について考えてみたり、団体についての積極的なPR活動を行います。また、保護司会や女性会などでもイベントを行っています。

「グループワーク」では、保護観察中の対象者からのニーズがあれば、地域の子ども達とのレクリエーションを通して、社会性や発達の育成活動を行っています。

その他にも、地域の夜の見回りパトロールに参加し、非行少年と健全な関わりを持つ「非行防止活動」で、非行に走る思考を抑制していく取り組みも行っています。

今後の活動展望について

この活動には知名度も必要ですが、活動を継続することが今後の存続に繋がっていきます。

そのためにも、先ほどの活動以外にも、子ども食堂や子どもの居場所さんとタイアップしてボランティア活動に参加していきたいと考えています。

また、「ともだち活動」の難しさとして、対象の少年たちのニーズが無ければ、活動ができないことが挙げられます。こちらから提案はできない制約があるため、保護観察所の方や地域の方たちと顔を繋げて活動の幅を広げられたらと思います。

また、後進育成を進めることで、今後も非行少年と年齢が近い会員が活動しやすい環境も作りたいです。

最後に伝えたいことを教えてください

皆さんが生活している地域の中にも色々な問題を抱えた人がいることを頭に入れていただき、様々な人が生きやすい社会を作りたいです。

そのためにも私たちの活動に少しでも興味を持っていただければ嬉しいです。

OKIU 青春白書 ～活躍する学生たち～ 02

國吉　駿之介
Syunnosuke KUNIYOSHI
産業情報学部産業情報学科　3年次　普天間高校出身

将来の目標はゲームクリエイター!

週刊少年ジャンプ（集英社）主催の新人漫画賞「2024年6月期JUMP新世界漫画賞」にて、國吉駿之介さん（産業情報学科3年次）の作品「カミサマリザレクション」が入賞（佳作）しました。

この漫画賞（2018年～）の入賞は、沖縄県内初となります。國吉さんは第75回沖展グラフィックデザイン部門でも奨励賞を受賞し、将来の目標に向けて学業と創作活動に精力的に取り組んでいます。現在3年次の國吉さんは今回の受賞作品を通して、どのような創作活動に取り組んでいるのか話を伺いました。

大好きなレトロなアイテムで溢れた作品

漫画賞に応募したきっかけを教えてください

もともと漫画賞には応募しようとは思っていませんでした。大学入学時に漫画を描き始めたいと考えていましたが、今まで2回ほど諦めてしまいました。今回の受賞作は去年の春休みに制作を始めて、丸4か月くらいかけて制作しました。

漫画の制作について

お互いに影響しあうバディ系の漫画が好きで、今回の作品は意識していませんでしたが、好きなジャンルに仕上がりました。

もともと線画を書くことが苦手で、作品を仕上げたときは直したいところが多々ありましたが、書いていくうちに漫画の描き方が分かってきました。ただ、また途中で挫折してしまいそうでしたので、毎月応募できる集英社の新人漫画賞に出すことを目標に、6月には何とか書き上げることができました。

受賞した作品で苦労した点は?

読み切り漫画は55ページという制限があり、今回は規定枚数で応募しました。

読者に物語の世界観や情報を規定ページ数でいかに伝えることができるのか苦労しました。

長編漫画では徐々に伝える情報を、今回の作品では台詞などで伝えないといけないなど、読み切り漫画の難しさを感じました。

受賞作の評価について

漫画賞の受賞結果は週刊ジャンプ本誌に掲載していただき嬉しかったです。人と人との自然な会話シーンが苦手でしたが、編集長からの「擬音を書くのが上手い」「キャラの台詞があっさりしている」などの講評があり、今後の漫画制作に必要なことを教えていただきました。

現在の創作活動について

現在はアルバイトも辞めて、大山ゼミでCG作品のポートフォリオ制作に時間をかけています。

将来は、ゲーム会社でキャラデザイン、ステージデザインを担うゲームクリエイターになりたい目標があります。漫画賞の担当編集者にも、就活があるので来年まで読み切りは書けないとお伝えしています。

大山ゼミでの活動について

CG作品のポートフォリオは就活での大事な作品になりますので、1点1点時間をかけて制作しています。私は昭和アナログや、レトロで生活感がある古いものが好きなので作品に落としこんでいます。

入学当初は図書館司書になりたいと思っていましたが、2年次後期からCGを触り始めて、現在の目標が生まれました。CG制作当初はまったくスキルはありませんでしたが、大山先生が丁寧に教えてくださるので、研究室を訪ねてアドバイスをもらい、CGの細かい繋ぎ目などを手直しして作品の精度を上げています。

今後の目標について

まずは現在取り組んでいるポートフォリオ作品を完成させることが一番の目標で、その上で就職活動を頑張りたいと思います。漫画については、ジャンプギガで読み切り作品の掲載を目標にしています。今回の受賞作は新人発掘の漫画賞でしたが、次回はプロの土俵に行くようなイメージです。

現在考えている作品の世界観とストーリーはできているので、1年後には作品を完成したいです。

01 卓球部

部長　野原　勝太

入部方法

Instagram：_okiu_tabletenis_
練習時間にお越しいただくか、インスタグラムにご連絡ください

活動場所・曜日・時間

活動場所：サークル棟　3階
平　日：16時半～
土曜日：14時半～

卓球部は男女16名で活動しています。サークル棟の3階、平日は16時半から、土曜日は14時半から練習をしており、主に年2回ある九州学生リーグや県の大会に参加しています。

また、年に数回、食事会やペンションを借りて部員みんなで集まったりもしていて男女ともに仲が良く、充実した時間を過ごせます！

沖縄国際大学卓球部は男女ともに九州学生リーグの一部に属し、インカレや全日本出場などを目指して頑張っています。部員のほとんどが小中高からの経験者ですが、初心者の方も大歓迎です!! 気軽に見学、体験をお待ちしてます!!

02 男子ソフトボール部

部長　吉山　悠介

入部方法

練習時間にお越しいただくか、インスタグラムにご連絡ください。

活動場所・曜日・時間

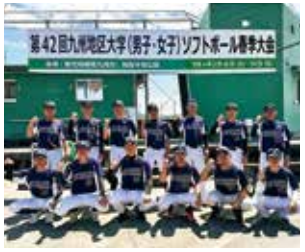
活動場所：沖国大 グラウンド
毎週月曜日 16時～

男子ソフトボール部は、毎週月曜日にグラウンドで練習を行い、県内の大学とのリーグ戦や、春・秋に行われる九州大会にも積極的に参加しています。

試合や遠征を通じて、チームメンバー間の絆が深まり、特に、先輩後輩の仲が良いことがこの部の特徴です。毎回、遠征先では笑顔や感動の瞬間が多く、共に過ごす時間は貴重な思い出となります。

さらに、沖縄国際大学には遠征費の補助があり、優れた成績を収めると奨学金も受け取ることができるため、学業と部活動の両立がしやすい環境が整っています。マネージャーも募集中ですので、チーム運営に興味がある方はぜひ一度見学にお越しください。

チームを支え、一緒に成長していく経験は、かけがえのないものとなるでしょう。



03 eスポーツサークル

部長　知念　恵史

入部方法

Twitter、Instagramを確認の上、活動日に13号館403教室にお越しください。

活動場所・曜日・時間

活動場所：13号館403教室
毎週金曜日 4限～6限

私たちeスポーツサークルは、週に一度活動する場を設けており、様々なゲームを遊ぶことができます。

「eスポーツ」と聞くと1VS1の対戦というイメージがありますが、実際はそんなことはなく、２～４人まで遊べるパーティーゲームなどでもよく遊んでいます。

eスポーツサークルでは、「好き」を共有できるサークルです。同じ趣味を持つ人達と楽しい会話やゲームをすることも大学生活の楽しみのひとつではないかと私は思います。

腕に自信のある方、ゲームを全くしたことがない方も大歓迎です！

ぜひ eスポーツサークルで一緒に楽しく遊びましょう！

04 NMC（ニューミュージッククラブ）

部長　新垣　和也

入部方法

Twitter、Instagramにコメントしてください。

活動場所・曜日・時間

活動場所：
サークル棟1F部室・練習スタジオ

主に20～30名の部員数で活動しています。

それぞれがバンドを組んでおり、オープンキャンパスや大学祭での学内ライブ活動がメインです。

また、県内ライブハウスでの活動や、年3、4回のギグではサークル棟1階ロビーを貸し切って、丸一日ライブを行います。

サークル棟の練習スタジオでは、邦楽カバーを中心に各バンドが週２コマ（180分）の時間で練習しています。

初心者の方でも、備え付けの楽器で練習してもらい、経験者のサポートも行っています。

新年会などのイベントや学外者との交流もあるため、音楽好きはもちろん、就活のアドバイスをもらいたい人や人脈を増やしたい人にはお勧めの部活動です。

グローバル教育支援センターを活用しよう!

本学では海外の大学と交流協定を結び、学生や教職員が活発に交流を深めています。

また、海外留学に関しては、一年間の交換留学、派遣留学や3～4週間の海外語学・文化セミナーなど、充実したプログラムを用意しています。グローバル教育支援センターでは、海外留学に関する相談、語学力向上のための外国語スピーチコンテスト、語学検定の対策講座などの受付を行っています。その他にも海外留学生との交流イベントを通して、文化交流も盛んに行われており、各国の留学生と仲良くなる機会があります。

海外文化や語学に興味のある学生は、気軽にグローバル教育支援センターを活用してください。

交換・派遣留学国外協定校一覧

※募集時期：5月（予定）

留学種別	派遣先(国・地域)	募集人数	留学期間
交換	東海大学(台湾)	3名	2月～翌年1月
交換	韓南大学校(韓国)	3名	2月～翌年1月
交換	嘉泉大学校(韓国)	2名	2月～翌年1月
交換	釜慶大学校(韓国)	3名	2月～翌年1月

※募集時期：10月（予定）

留学種別	派遣先(国・地域)	募集人数	留学期間
交換	澳門大学(中国)	2名	8月～翌年7月
交換	FPT大学(ベトナム)	1名	8月～翌年7月
交換	レンヌ第2大学(フランス)	3名	8月～翌年7月
交換	レオン大学(スペイン)	3名	8月～翌年7月
交換	オスナブリュック大学(ドイツ) ※総合文化学部生のみ対象	3名	8月～翌年7月
派遣	南ユタ大学(アメリカ)	6名	8月～翌年7月
派遣	バンクーバーアイランド大学(カナダ)	6名	8月～翌年7月

スペイン語スピーチコンテスト ／ コンテストには 26 名がエントリーしました

フランス語スピーチコンテスト ／ フランス留学を目指す学生も参加しました

■海外語学・文化セミナー帰国報告会 ／ 春・夏休みを利用したセミナーです

グローバル教育支援センター（本館 1 階）窓口受付時間：平日 9 ～ 17 時

2024.07.16-17

宜野湾市内の中学校で「ブックトーク」の実習を行いました！

7 月 16 日、17 日の２日間、松川まゆみ先生のご指導の下、宜野湾市内の中学校教諭のご協力を得て、司書教諭と学校司書資格課程の 4 年次 14 名が「ブックトーク」の実習を行いました。「ブックトーク」とは、1 つのテーマに沿って 10 冊ほどの本を数珠つなぎに紹介していき、読書への関心を引き出すことを目的とする読書指導です。

今回は「読書の幅を広げる～夏休みに向けて」という大きなテーマに沿って、受講生 2、3 名ずつがグループになって、「ジェンダー」「ふしぎ」「きずな・つながり」「時間」「夏」といったテーマで、1 時間の授業を担当しました。

子どもたちを前にしたブックトークということで、学生たちは緊張した様子でしたが、子どもたちの素直な反応が励みになり、ブックトークの難しさ・面白さはもちろん、教壇に立つことの意味についても深く学んだ一日になりました。

実習後には、多くの生徒が紹介した本を手に取る様子も見られ、ブックトークを通して読書への関心が広がったようです。今回の実習を通して、各資格課程の学生は貴重な経験を積むことができ、学校公共図書館の司書とは違ったアプローチや役割を学んだのではないでしょうか。ブックトークを熱心に聞いてくれた子どもたちにも、受講生一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

2024.07.7

ツーリズム英語の履修生がテーブルマナーの講座に参加しました

昨年 7 月 7 日、上原千登勢先生（産業情報学科講師）ご担当の「ツーリズム英語」履修生がホテルコレクティブのテーブルマナー講座に参加しました。

担当教員より

テーブルマナーのレクチャーとコース料理がセットという内容の濃い講座でした。新卒でホテル勤務経験のある私も知らないことが多く、とても勉強になりました。当日ドレスアップして宴会場に到着した学生は少し緊張気味でしたが、おいしい食事を口にするとすぐに笑顔になったのが印象的でした。「これは何？」、「初めて～を食べた」、「お肉、おいしい！」など、クラスメートとの会話も弾みました。テーブルマナーを身につけることはもちろんですが、作法の歴史的背景、料理や食材の語源の知識、そしてヨーロッパを中心とする異文化理解にもつながったと思います。個人的には将来ホテルや観光業に関心を持つ学生が増えることを期待しています。

ツーリズム英語は産業情報学科の専門選択科目で、3、4 年次の履修が可能です。他学科の学生も自由科目などとして履修ができます。今回実施した講座は学生の満足度がとても高かったので今後も継続したいと考えています。学生の皆さん、是非ツーリズム英語を履修してください！

2024.07.24

共通科目「国際経済」で特別講義を実施しました

7 月 24 日（水）、共通科目「国際経済」（担当：鹿毛理恵経済学科教授）では、「アレン奨学会沖縄」代表の宜野座映子さんを講師に迎え、特別講義を実施しました。

今回の講義は、米軍ヘリ墜落事件から 20 年目の節目にあたる特別企画として、実施しました。

宜野座映子さんは、1990 年代半ばより元米海兵隊ベトナム帰還兵のアレン・ネルソン氏との交流を重ね、「アレン奨学会沖縄」を立ち上げ、ベトナムの子どもたちに奨学金支援を続け、さらに県内学生にベトナム研修の機会を提供するなど平和教育に尽力しています。

また、宮森小米軍ジェット機墜落の記憶を語り継ぐ表現集団「ハーフセンチュリー宮森」代表としての活動や、この事件を題材にした絵本の読み聞かせ活動も行っています。

アレンさんとの交流で聞いたベトナム戦争体験、宮森小米軍ジェット機墜落事故、1995 年の少女暴行事件にも触れ、学生は真剣な表情で聞いていました。

「この指は銃の引き金を引くのではない。この手は隣りの人と手を繋ぐのだ。私たちは 1 人では生きていけないのだから」とアレンさんの言葉をメッセージとして伝えていただきました。

また、本学卒業生で「ハーフセンチュリー宮森」で活動中の前田美幸さんによる絵本の読み聞かせや、曲目「想い花（うむいばな）」を前田美幸さんが歌い、琉球舞踏家・新里春加さんによる演舞で宮森小米軍ジェット機墜落事故の記憶を舞踏と歌で表現したパフォーマンスも披露しました。

前田さんは本学在学中に米軍ヘリ墜落事件を経験し、恩師の石原昌家先生から託された「平和は自分でつくらないといけない」と当時のメッセージを伝えていただきました。

2024.08.13

「普天間基地の閉鎖を求め、平和の尊さを語りつぐ集い」を開催しました

8 月 13 日（火）午後 2 時より、「普天間基地の閉鎖を求め、平和の尊さを語りつぐ集い」を開催しました。昨年は、2004 年 8 月 13 日の米軍ヘリ墜落事件から 20 年目の節目の年でした。

事件を風化させないために、本学では毎年、「普天間基地の閉鎖を求め、平和の尊さを語りつぐ集い」をポケットパーク（ヘリ墜落現場モニュメント）前にて開催しており、本年度は約 130 名の方に参加していただきました。

第一部では、安里肇理事長・学長による普天間基地の閉鎖・撤去を求める声明、経済学科 3 年次の儀保裕一朗さんと地域環境政策学科 4 年次の謝花美生さんによる意見発表を行いました。

また、特別企画として、図書館 AV ホールにて、沖縄タイムス社 社会部部長 磯野直氏と詩人・作家の大城貞俊氏による講演会、上江洲朝男氏、高宮城六江氏、嘉数貞夫氏による朗読劇「にんげんだから」、学長、教職員代表、学生代表による平和宣言を行いました。

2024.09.23

WEEKDAY CAMPUS VISIT［高校生進路発見プログラム］を初開催いたしました

2024 年 9 月 23 日、「WEEKDAY CAMPUS VISIT（以下、WCV）～高校生進路発見プログラム～」を初開催しました。WCV は大学の通常講義を高校生に体験してもらい、入学後のミスマッチを防ぐプログラムです。当日は、約 60 名の高校生が大学の講義やゼミに参加し、大学での学びの楽しさを体感してもらいました。

1 限目のオリエンテーションでは、本学の建学の精神、理念、教育目標を説明した後、各学部・学科の特徴や学生数の説明等を行い、オキコクの全体像を理解してもらいました。講義終了後のワークショップでは、「講義がとても面白かった」、「教授や先輩たちと直接話すことで、進路をより具体的に考えることができた」という感想が多数寄せられました。

今回の WCV 参加学生は、普段の高校生活では得られない新しい視点と出会い、進路選択の幅を広げる良い機会となったようで、本学としても大きな意義を感じています。

大学での学びに興味を持ち、今後のキャリアを考えるきっかけとなるように、次回も開催する予定です。（本年度 2 回目は 11 月 4 日に開催しました）

また、高等学校の進路指導の良い機会として、本プログラムを通して進学意欲が高まり、進路選択の意思決定に大きな影響を与えることが期待できます。

次回の WCV も、より多くの皆様のご参加をお待ちしております。

2024.09.08

【卒業生の活躍】喜納翼さん、パリ 2024 パラリンピック車いすマラソン 12 位

9 月 8 日、パリ 2024 パラリンピック車いすマラソン（T54 クラス）において、本学日本文化学科卒業生（2012 年度卒業）の喜納翼さんが、12 位の成績を修めました。

喜納さんは、女子車いすマラソン（T54 クラス）の日本記録保持者で、東京 2020 パラリンピックに続き 2 大会連続の出場となりました。喜納さんの活躍は後輩たちにとっても大きな励みとなります。

今後の更なる飛躍を応援しております。

2024.09.10-11

【経済学科】：明治大学と合同ゼミナールを開催しました！

9 月 10・11 日、経済学科の高ゼミ・小濱ゼミ・名嘉座ゼミと明治大学政治経済学の小野島ゼミ・宮崎ゼミと合同ゼミナールを開催し、ゼミ活動での研究成果を発表しました。

合同ゼミナールでは、ゼミ毎にグループ研究の成果を発表し、グループディスカッションと質疑応答を行いました。専門分野が異なるゼミの発表とディスカッションを通して、参加者の視野を広げる良い機会となりました。

投票の結果、最優秀賞には、高ゼミによる「沖縄県の物価事情」が選ばれました。明治大学を相手に最優秀賞を獲得できたことは、高ゼミの学生たちにとって大きな自信となりました。

合同ゼミでは、学生主体による事前準備や当日の運営、各セッションの司会・進行、両大学の学生たちによる各大学のグッズ交換も行い、学生たちにとって良い経験となりました。

ゼミ終了後、初日は宜野湾トロピカルビーチでのバーベキュー大会、2 日目は大学構内での食事会を行いました。異なる文化や多様な価値観に触れることができた今回の合同ゼミは、本学の学生にとって有意義なものであり、次年度以降も開催したいと考えております。

2024.08.31- 09.22

硬式野球部　九州地区大学野球選手権大会沖縄地区予選 優勝

2024（令和 6）年 8 月 31 日～ 9 月 22 日に開催された第 112 回九州地区大学野球選手権大会南部九州ブロック沖縄地区予選において勝ち点 3（6 勝 2 敗）の成績を収め、2 季連続で優勝することができました。その結果、沖縄地区代表として 10 月 18 日から熊本県で開催される決勝トーナメントへ出場いたします。決勝トーナメントの優勝校は九州大学野球選手権大会への出場権を得ることができ、その優勝校が明治神宮野球大会へ出場することができます。

全国大会への出場を目指して頑張りますので、ご声援のほどよろしくお願いいたします。

※決勝トーナメントでは、第 2 試合まで勝ち進みましたが、宮崎大学（宮崎地区 2 位）に 11 対 0 の 6 回コールドで惜しくも敗れてしまいました。

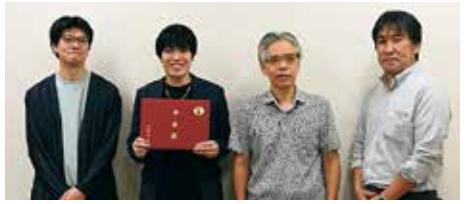
2024.10.03

本学、金武町、法務省那覇保護観察所の三者間連携に関する協定式を締結

10月3日（金）、金武町役場において、金武町と本学及び法務省那覇保護観察所の連携に関する協定式が執り行われました。協定は、本学、金武町、那覇保護観察所の三者間で相互に連携し、金武町における人的・知的資源及び社会資源等の活用を図りながら、地方における再犯防止施策を推進させ、地域の発展と教育研究活動の推進等を目的としております。再犯防止推進計画の策定に学生がかかわるのは県内大学では初めての取り組みとなります。

田場女偉さん（人福社会福祉専攻4年次）は、「県内大学では初めての取り組みで緊張します。金武町のためにも地域の魅力を最大限引き出して、再犯防止推進計画案を作成できるよう、他の学生と切磋琢磨しながら精一杯頑張りたいです」と意気込みを語りました。

今回の計画案策定では、荻野ゼミ学生（人福）を中心に金武町や那覇保護観察所の助言を頂きながらフィールドワークを行い、2026年3月までに取りまとめる予定です。

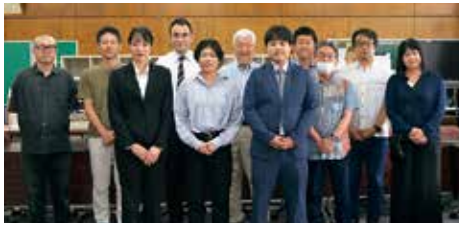


2024.10.04

令和6年度　秋季卒業式を挙行いたしました

今年は法学部4名、経済学部4名、産業情報学部1名、総合文化学部14名の学部生計23名が卒業認定され、それぞれ新たなステージの一歩を踏み出しました。

終始和やかな雰囲気のなか、ときおり笑い声もあがるなど、秋季卒業式ならではの温かな式典となりました。ご卒業、おめでとうございます。みなさまの益々のご活躍とご健勝をお祈りいたします。



2024.10.04

令和6年度　特待奨学生証書交付式を行いました

10月4日（金）、各学部において特待奨学生証書交付式を行いました。

本学の特待奨学生制度は「学業・人物ともに優秀で他の模範となる学生」という基準で選考され、授業料及び施設設備資金に相当する額が給付されます。

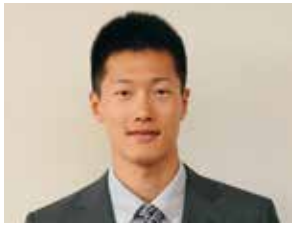
今回、33名（法学部6名、経済学部6名、産業情報学部6名、総合文化学部15名）が交付対象となり、対象者の中には2年連続・3年連続で選出された学生もいました。交付式では各学部からその優秀な成績と真面目な勤勉ぶりに対する賛辞が述べられました。

沖国大では、奨学金制度をはじめ、学生の皆さんの学びや活動をサポートしています。

学内人事

◆ 採用職員紹介 ①最終学歴　②専門分野

〔2024年9月16日付採用〕



法学部 法律学科 講師
黒田 佳祐（くろだ　けいすけ）
① 日本大学大学院
法学研究科修了　修士（法学）
② 保険法、会社法、商法

法学部　地域行政学科　講師
中川 豪（なかがわ　ごう）
① 明治大学大学院　政治経済学研究科
博士後期課程修了　博士（政治学）
② 行政学、地方自治論、比較政治学

産業情報学部　産業情報学科　准教授
叶 作義（かのう　さくぎ）
① 名古屋大学大学院　国際開発研究科
博士後期課程修了　博士（学術）
② 産業連関分析の応用、
開発途上国の開発と環境に関する分析、
貿易政策の定量的評価
（産業連関モデル、応用一般均衡モデル）

◆ 退職者 ※特任教員、再任用職員として引き続き在籍する者は除く

〔2024年5月8日付退職〕

職　名	氏　名	勤続年数
産業情報学部　教授	又吉　光邦	25年1か月

〔2024年10月31日付退職〕

職　名	氏　名	勤続年数
学生部キャリア支援課　係員	下地　晃太	4年7か月

◆ 昇任 教育職員

〔2024年10月1日付昇任〕

新職名	氏　名	旧職名
法学部　教授	西迫　大祐	法学部　准教授
法学部　教授	野添　文彬	法学部　准教授
産業情報学部　教授	李　相典	産業情報学部　准教授
産業情報学部　准教授	島袋　桂	産業情報学部　講師

check!

information 大学行事案内（2025年2月～2025年9月）

2月 14日（金）～ 3月31日（月）	春期休業
2月 25日（火）	本学創立記念日
3月 6日（木）	再試験（春季卒業）
3月 21日（金）	春季卒業式
4月 1日（火）	入学式
4月 2日（水）	在学生（編入生含む）オリエンテーション
4月 2日（水）～ 4月 5日（土）	前期・通年科目Web仮登録期間
4月 3日（木）	第2回新入生オリエンテーション
4月 3日（木）	外国人留学生オリエンテーション
4月 7日（月）	前期講義開始
4月 7日（月）～ 4月12日（土）	前期・通年科目登録調整期間
4月 29日（火）	出校日（昭和の日）
4月 30日（水）	休校日（4/29振替）
5月 1日（木）	休校日（7/21振替）
5月 2日（金）	休講日（体育祭）
6月 23日（月）	休校日（慰霊の日）
7月 21日（月）	出校日（海の日）
7月 29日（火）～ 8月 4日（月）	前期試験・補講期間
8月 4日（月）	前期講義終了
8月 12日（火）～ 9月20日（土）	夏期休業
8月 13日（水）	沖縄国際大学平和の日
9月 2日（火）	再試験（秋季卒業）

OKIU SNS

大学公式SNSでは随時情報を発信中です。LINEでは入試広報関連情報を、InstagramとX(旧Twitter)では大学構内の風景やキャンパスライフを、Facebookでは保護者や卒業生向けの情報を中心に更新しています。ぜひ一度ご覧になってみて下さい。

LINE @okikokudai

Instagram @okikokudai_pr

X (旧Twitter) @okikokudai_pr

facebook @OKIU.PR

平和・共生　個性・創造　自立・発展

沖縄国際大学

JIHEE since 2004 II UNIVERSITY 2018.4～2025.3

VEGETABLE OIL INK

R80 古紙パルプ配合率80%再生紙を使用

編　集 | 事務局広報課　〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾2-6-1　TEL.098-893-7629　Email : pubchr@okiu.ac.jp

印　刷 | 株式会社 尚生堂

【沖縄国際大学 学報 123号】 2025年3月20日発行